

明木地区にまつわるストーリー

明木の地名は、検地の際、御帳を一番に提出しその褒美として安芸の殿様（毛利氏）から「安芸^{あき}埒^{らち}」という名を賜ったことによると伝えられています。

その後、毛利氏が萩へ移ったことにより、萩城の築城や城下町の建設に要する資材や労力の供給元として明木は重要な役割を果たしました。萩往還が整備され、その宿駅として明木市のまちがつくられ、寛永12年（1635）に参勤交代が制度化されると、交通の要衝として栄えました。また、城下町萩の周辺地域として薪炭や農産物など、萩に供給する産物の生産も盛んでした。



行程記のうち明木市〔絵図で見る、防長の町と村〕より転載 山口県文書館蔵

明木の偉人

瀧口 吉良^{よしなが めいじょう}（明城）翁 安政5年（1858）生まれ
従兄弟の藤井清の奨めで慶応義塾に学び、創始者福沢諭吉に師事しました。明治22年（1889）に初代明木村長となり、図書館の建設、小学校の改築、青年団・壮年団等各種団体の育成指導など明木の教育文化の発展に尽くしました。

また、彦六・又十郎や涙松の石碑の建立、明木八勝の選定など、ふるさとの歴史や風景の顕彰にも貢献しました。



日本南画の重鎮 松林桂月の生みの親？

当時、明木村役場に勤めていた松林桂月の才能を見出し、上京を後押しするなど多大な援助を続けた。



旧村立明木図書館

昭和3年建設の2代目村立明木図書館。吉良翁はこの建設資金も寄付した。



松陰神社・涙松

その他萩も含め様々な整備・顕彰に貢献した。

藤井 清^{きよし} 嘉永4年（1851）生まれ

明治5年（1872）山口県に出仕し、翌年には井上馨に見出され、大阪造幣寮（現在の造幣局）に出向き、西洋簿記を習得。7年には文部省に入省し、役職につく傍ら福沢諭吉の門弟になり、諭吉とともに日本に西洋式簿記学を普及させました。明治22年（1889）に明木へ帰郷、第2代明木村長となりました。



あきらぎ いち 明木市 見て歩き

明木市は、かつては参勤交代の宿駅として、萩往還や赤間関街道の交通の要として栄え、現在でも特色ある石州赤瓦屋根の古民家が連なり往時の面影を残しています。明治24年（1891）大火により殆どの家が焼失し、残った家数は3軒でした。大火直後に建てられた家が現在も数軒残っています。宿駅としての役目を終えたあとも明木全体の中心地として、交通の要としてにぎわい続けた明木市には明治・大正・昭和初期のレトロで文化的なおたからも隠れています。

よく見るとい3人のお宝がいっぱい！
赤瓦の美しい町並みの明木市を散策しよう！



萩往還の移り変わり

もともとの萩往還は、防長地下上申絵図によると、乳母の茶屋東側の小道を明木川に向かって進み西来寺門前に市尻土橋が架かっていた。その橋脚の痕跡が西来寺側の川岸の岩に2ヶ所残っている。

また中国行程記によると、この小道を現在お地蔵様のある場所付近を直角に右折し明木川に沿って明木駐在所付近で土橋が架かっていた。たびたびの水害でルートが変わったと思われる。――表示②

現在の明木橋を通る道は明治17年及び大正9年に整備された新道である。

明木の恩人 ～彦六・又十郎伝～

慶長9年（1604）、萩城が指月山の麓に築かれる際、明木の里に石工の技に秀でた古戦場の彦六、菅蓋の又十郎という二人の青年がおりました。

お城の石垣組みに行った二人は、大きい重い石をやすやすと動かして一生懸命働きました。その功績は拔群のものがあつた殿様の目に留まり功勞の褒美に「何なりと望みのものを申せ」と言われましたが、二人は自分たちの利益は少しも顧みず、明木の里全員に対して「口屋錢」の免除を願い出ました。「口屋錢」とは萩の城下に売り出す薪炭・野菜などの一切の物資に対して徴収する税金のことです。殿様はこの二人の心がけに非常に感心され明木の里全員に「口屋錢」の特免の恩典を与えられました。

以後、明木の村人は口屋錢を払わなくてすむようになり大変しあわせました。

菅蓋の又十郎

古戦場の彦六



彦六・又十郎ゆかりの地



西来寺 彦六・又十郎の碑 マップ面③



菅蓋 又十郎誕生地 マップ面⑦



古戦場 彦六・又十郎碑 マップ面④

施設のご案内

萩往還交流施設 乳母の茶屋

萩往還を訪れる人のための休憩施設としても利用可能。

〒山口県萩市大字明木3197
☎ 0838-55-0211（萩市旭総合事務所）
営業 8:00～17:00 年中無休



農産物加工販売所 つつじ

明木地区や旭地域などの地場産品を販売。新鮮で安心できる野菜・加工品が人気。
営業 8:30～17:30 休 12/31～1/3
☎ 0838-55-5031



農家レストラン・つつじ亭

地産・地消のやまぐち食彩店、日替わり定食は1日30食限定

〒山口県萩市大字明木2857-1
☎ 0838-55-5032
営業 11:00～14:30 休 12/30～1/3
普通車50台、大型車3台

イベントのご案内

萩往還まつり 技・明木展

と き／5月3、4日

ところ／乳母の茶屋、明木市周辺

赤瓦の町並みと熟練の技が生み出した工芸品が人と人の出会いを結び



ガイドのご案内（萩往還）

萩往還語り部の会

時間／ご希望の時間に合わせます

料金／(1)さわやか萩往還実感コース（6,000円）(2)一升谷の石畳コース（11,000円）(3)一の坂四十二の曲りコース（6,000円）(4)三田尻御茶屋コース（6,000円）

申込／要予約（7日前まで）各コースとも1組2名以上10名程度が基本
やまぐち萩往還語り部の会事務局 電話・FAX：083-920-3323
http://hagi-okan.yamaguchi-city.jp/guide/

R5.3 現在

編集

萩往還工芸まつり実行委員会 彦六・又十郎伝保存会

発行

萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）



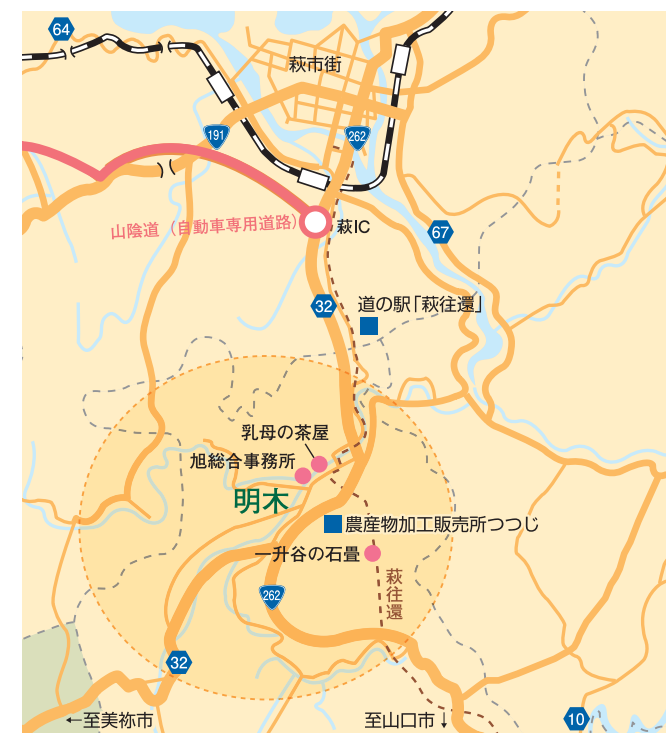
萩まちあるきマップ

あきらぎ 明木地区 おたからマップ



明木市の町並みと周囲の山里

萩往還と赤間関街道の交通の要として栄えた明木には、石州瓦の赤い屋根の町屋が連なり、往時の面影を残しています。そして、周辺では今も農耕が営まれ、深い緑の山々を背景に昔ながらの茅葺や赤瓦の農家が点在する、静かで穏やかな美しい山里が広がっています。その歴史の中では、郷土はもちろん城下町・萩も含めた地域の成り立ちと発展に寄与した「人と文化のおたから」が生み出されてきました。穏やかな山里や町並みを歴史や文化を感じながらゆったりと歩いてみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩まちじゅう博物館 おたからWEBSITEでチェック!!

www.city.hagi.lg.jp/site/machihaku/



Hagi Machijyu Hakubutsukan

萩まちじゅう博物館

萩 往 還

赤間関街道

萩往還は、慶長9年(1604)に萩城築城が決まったあと、萩から山口市を通って防府市(三田尻)までをほぼ直線で結ぶ全行程53kmの街道として整備されました。山陰と山陽を結ぶ重要な交通路であり、幕末には、多くの志士たちが往来しました。

赤間関街道は、寛永元年(1624)～正保5年(1648)にかけて、萩から下関(赤間関)を結ぶ街道として中道筋・北道筋・北浦筋の3つの街道が整備されました。中でも中道筋は最短ルートとして主要街道となり、萩唐樋枳場を起点に明木までは萩往還と重複し、明木堂尾の一里塚から分岐して雲雀峠を越え、絵堂・秋吉・河原・四郎ヶ原の各宿駅を経て、赤間関に至る80.8kmの行程です。幕末には、政治や外交のため、多くの志士達が往来しました。

明木おたからマップ

瀧口明城さんが
選んだ明木の
美しい景色

明木八勝 おすすめトレイル

- 1 悴坂
- 3 西来寺
- 4 明木神社
- 5 森久保井手
- 7 一升谷の石畳(1)
- 15 鞍見山
- 19 不動滝
- 26 雲雀山

赤間関街道おすすめトレイル

- 22 下横瀬公民館
- 23 豆伝坊の棚田
- 24 三角岩
- 25 ひばり山峠の石畳
- 27 郡境碑

萩往還おすすめトレイル ～分岐点から佐々並へ～

- 歩きコース
- 7 一升谷の石畳(1)
 - 8 根の迫の石橋
 - 9 五文蔵の石畳
- ドライブコース
- 10 下の茶屋
 - 11 御駕籠建場跡
 - 12 上の茶屋
 - 13 中の坪下一里塚

明木七観音おすすめトレイル

- 2 原
- 3 笛吹
- 6 牛地
- 16 見定
- 14 惣田
- 18 小野山
- 21 下横瀬

